



日本養鶏協会第70回定時総会開催のお知らせ

令和元年5月23日に開催された第1回理事会において、「第70回定時総会」を下記により招集することが決定いたしましたのでお知らせいたします。

ご案内文書については後日郵送させていただきますので、会員の皆様のご出席をお願い申し上げます。

記

- 1 日 時 : 令和元年6月25日(火) 13:30~16:00
- 2 場 所 : 大手町サンケイプラザ 3F
東京都千代田区大手町1-7-2
電話 03-3273-2230
- 3 議 案 (決議事項)
 - 第1号議案 平成30年度計算書類等に関する件
(公益目的支出計画実施報告も含む)
 - 第2号議案 令和元年度会費の賦課及び徴収方法に関する件
 - 第3号議案 定款の一部変更(第21条)に関する件
 - 第4号議案 理事19名・監事3名の選任に関する件
(報告事項)
 - 1 平成30年度事業報告
 - 2 令和元年度事業計画及び収支予算

鶏卵公正取引協議会からのお知らせ

当協議会は、生食用として販売される殻付き鶏卵の表示の適正化を図るため、消費者庁長官、公正取引委員会の承認を得て設立された、業界の自主的組織です。

公正取引規約の参加事業者は、規約の内容を遵守している限り、景品表示法や関係法令上問題とされることがないため、安心して販売活動を行うことができます。

表示に関するご相談や新規入会ご希望の方は、協議会事務局までご連絡ください。

鶏卵公正取引協議会 事務局		担当：重本、田淵、大塚
e-mail	teritama@jpa.or.jp	会員証紙 (公正マーク)
tel	03-3297-5516	
Web	https://www.jpa.or.jp/keiran_root/	



2019年IEC（国際鶏卵委員会）春季大会 — 2

先月に引き続き、IEC講演概要報告です。

■世界の鶏卵貿易のパターンの変化（独 IEC 統計分析官 H.W. ウインドホルスト教授）

- ・2006年から10年後の2016年の鶏卵の輸出入の変化や先進国と途上国のトレンドを通じて、鶏卵貿易のフローを論じる。
- ・この10年間、鶏卵の生産は右肩上がりだが、輸出入量については乱高下がある。欧州で2011年から2013年にかけて、輸出量は横ばいで推移したがこれは欧州でケージ飼いが禁止され余剰卵が出なくなったため。
- ・2016年の貿易取引量は、鶏卵生産量の2.7%に過ぎず、欧州は世界の鶏卵輸入量の約50%を占め、アジアは約40%に増えた。このように最近はアジアの輸入が増加し、世界貿易で欧州とアジアは支配的な地位を占めるようになっている。
- ・2006年から10年後の2016年の鶏卵輸出の変化について、2006年は1位オランダ、2位スペイン、3位ドイツ、中国、USAが5位6位だったのが、2016年は、1位はオランダだが、2位3位にトルコとポーランドが食い込んだ。4位ドイツで以下中国、スペインと続き、スペインの輸出力が低下した。
- ・2006年から10年後の2016年の鶏卵輸入の変化について、2006年は1位ドイツ、2位オランダ、中国、香港が4位5位だったのが、2016年は、1位はドイツだが、2位にイラクが入り、オランダ、香港、シンガポールが3位4位5位という順である。
- ・ドイツとオランダの鶏卵の貿易関係は興味深い。ドイツは、EUがケージを禁止する2年前の2010年に早々とケージ飼育を禁止している。これにはオランダが輸出する鶏卵の約70%がドイツに向けられることと無関係ではない。ドイツは鶏卵の輸入大国だがそのほとんどはオランダからの輸入で60億個以上の卵に当たる。またオランダは国土が狭いのでドイツ東部に生産農場を移す傾向があり、その結果生産された鶏卵がドイツを出てオランダに向い一部が再びドイツに売られるが、こうした動きが両国の貿易量にカウントされる。
- ・最後に途上国の鶏卵貿易だが、途上国の輸入の伸びは著しい。例えばLLDC（内陸開発途上国）とLDC（後発開発途上国）あわせると50%以上の伸び率である。また新興工業国で14%、OIC（イスラム協力機構）で33%の伸びを見ている。このように鶏卵の貿易は先進国だけでなくむしろ途上国にトレンドがある場合が多い。



- 鳥インフルエンザの最新情報 (OIE A. ティアマン博士)
- 事例研究—バイオセキュリティ (米国バーソバ社 ロス・ディーン)
- 鳥インフルエンザと戦うためのワクチン接種の役割 (仏セバ社 G. ドーフィン)

(以下に上記3つの論題の概要を一括してまとめた。)

- ・鳥インフルエンザウイルスはA型のインフルエンザウイルスだが、この種類を表すのに、例えば「H5N1亜型」などと表現する。この「H」はウイルス粒子の表面に突出しているスパイク状のたんぱく質の1つでヘマグルチニンに対応し、「N」は同様のたんぱく質の1つでノイラミニダーゼに対応する。Hには16種類の亜型(H1~H16)があり、Nには9種類の亜型(N1~N9)があり、この組み合わせでA型インフルエンザすなわち鳥インフルエンザを亜型によってタイプ別に分類している。
- ・高病原性鳥インフルエンザ (HPAI) のアップデートを試みたいが、そんなに大きな変化はない。WAHISというOIE (国際獣疫事務局) のサーベイランスシステムによれば、HPAIのピークは、2004-2006年、2012年、2013年、2017年にみられる。
- ・有名な「H5亜型」を見ると、H5N1亜型は当初アジアで発生し、2003年から現在に至るまで世界で散見されている。H5N8亜型は2016~2017年にかけて欧州で発生し、この時はワクチン接種が導入された。H5N6亜型は中国でみられ、人にも感染した。H5亜型は今のところ人から人への感染の証拠はないとされるものの、人に感染した場合死亡率50%以上だ。
- ・ついで「H7亜型」はどうか。H7N9亜型はアジアで、H7N3亜型は米国で発生し、ついこの間はH7N2亜型の発生がエジプトで報告された。このうちアジアで発生したH7N9亜型は2013年から2019年にかけて中国で発生し、鳥には低病原性 (LPAI) だが人への感染が見られ、死亡率は約40%だった。今後注意が必要な亜型である。
- ・「H9亜型」については、H9N2亜型は低病原性 (LPAI) で、中国の亜型から派生したものと考えられている。これは、症状はマイルドだが人に感染するとされている。現在ワクチン登録がされている。
- ・疫学上予防は大切であり、ワクチンを使用することで大量と殺をしなくて済む。従来型のワクチンは不活化ワクチンだが、そのほかベクターワクチン、サブユニットワクチンがあり、これら従来型のワクチンはウイルスタンパク質を接種して免疫を誘導するもの。また、ウイルス遺伝子を接種することで免疫源のタンパク質を体内



細胞で産生させるDNAワクチン、植物由来のウイルス様粒子(VLP:Virus Like Particle) 製造技術を用いたVLPワクチンなど多くの種類が開発されている。ワクチンの有無は、しかし国際貿易上の非関税障壁と関係する。

- ・疫学上の分類では、エンデミック（特定地域内に限られる日常的な流行）はナイジェリアとネパール以外のすべての国でそうである。またエピデミック（想定を超える症例数の流行）は欧州、米国、アフリカの各地域で、そこでは鳥インフルエンザが発生すると、大量と殺もしくはワクチン接種と接種後モニターのセットのいずれかの選択をする必要がある。

そのほかの論題として以下のものがあった。

1. 現代の小売業界 — 事例研究を通して（英国ノーブルフーズ社 ヴェリ・マルル）
2. 飼料産業の持続可能性における大豆の役割（米国イリノイ大教授 R. イースター）
3. 採卵鶏用タンパク質飼料、その次代の候補について
(英国プレミア・ニュートリッション社 S. ピッチャード)
4. 鶏舎の世界的将来像について（インド IEC 副会長 S. チツリ）
5. 企業の持続可能性への鍵（英国ランウェー・グローバル社 J. ハンディー）
6. ブレグジット（英国 EU 離脱）の世界ビジネスへの影響
(英国ダービー大学教授 T. ウィリアムズ)
7. ブレグジット（英国 EU 離脱）の鶏卵加工への影響
(デンマーク IEC 鶏卵加工部会会長 H. ペターゼン)
8. 代替え不可能な鶏卵（米国 C. サビニア）

協会活動報告

青字下線部クリックで、(一社)日本養鶏協会ホームページ内
該当事業のページが開きます

鶏卵生産者経営安定対策事業

- ① 価格差補填事業の事業参加者との契約数量（トン/月当たり）

平成 28 年度	164,846
平成 29 年度	162,353
平成 30 年度	169,171
令和元年度	167,141

- ② 5 月の標準取引価格 171.27 円/kg

平成 31 年度補填基準価格 185 円/kg
平成 31 年度安定基準価格 163 円/kg



食品安全委員会主催講座 食品健康影響評価のためのリスクプロファイル 開催ご案内

講座の概要

食品安全委員会は、食品に含まれる可能性のある微生物、化学物質等が人の健康に及ぼす影響を評価する内閣府のリスク評価機関です。昨年5月に、食品安全委員会はリスクプロファイル「鶏肉等における *Campylobacter jejuni/coli*」を公表しました。

本リスクプロファイルを用いてカンピロバクター食中毒の予防策について正しく理解していただくために、福岡と鹿児島で講座を開催します。本講座では、カンピロバクターに関して、諸外国の対策についても紹介しながら、リスクプロファイルの内容を中心に説明し、質疑応答を行います。

食中毒やその予防に興味があり専門知識を得たい方は奮ってご応募ください！

1. 開催会場及び日程：

【鹿児島会場】

日時：令和元年6月27日(木)13:30～17:00 (受付開始 13:00)

場所：鹿児島県鹿児島市山之口町1-10 鹿児島中央ビルディング 8階会議室

定員：80名程度

【福岡会場】

日時：令和元年6月28日(金)13:30～16:00 (受付開始 13:00)

場所：福岡県福岡市博多区博多駅中央街1-1 JR博多シティ会議室 9階会議室1

定員：50名程度

2. プログラム (予定)：

【鹿児島会場】

(1) 講義1：鶏肉等におけるカンピロバクター・ジェジュニ/コリについて

講師：食品安全委員会 委員 山本 茂貴

(2) 講義2：食品健康影響評価技術研究 ～ 定量的リスク分析に関する研究 ～

講師：鹿児島大学共同獣医学部 教授 中馬 猛久 (ちゅうま たけひさ)

【福岡会場】

(1) 講義：鶏肉等におけるカンピロバクター・ジェジュニ/コリについて

講師：食品安全委員会 委員 山本 茂貴

3. 募集対象：

応募に関して特に制限はありません。ただし講座内容を理解するために、微生物に関してのある程度の基礎的な知識が必要な部分があります。

4. 参加費： 無料

5. 応募方法ほか詳細：下記ページをご参照ください。※ウェブエントリーとなります。

https://www.fsc.go.jp/koukan/osirase/annai010627_28.html



日鶏協ニュース

令和元年 6月号
一般社団法人 日本養鶏協会

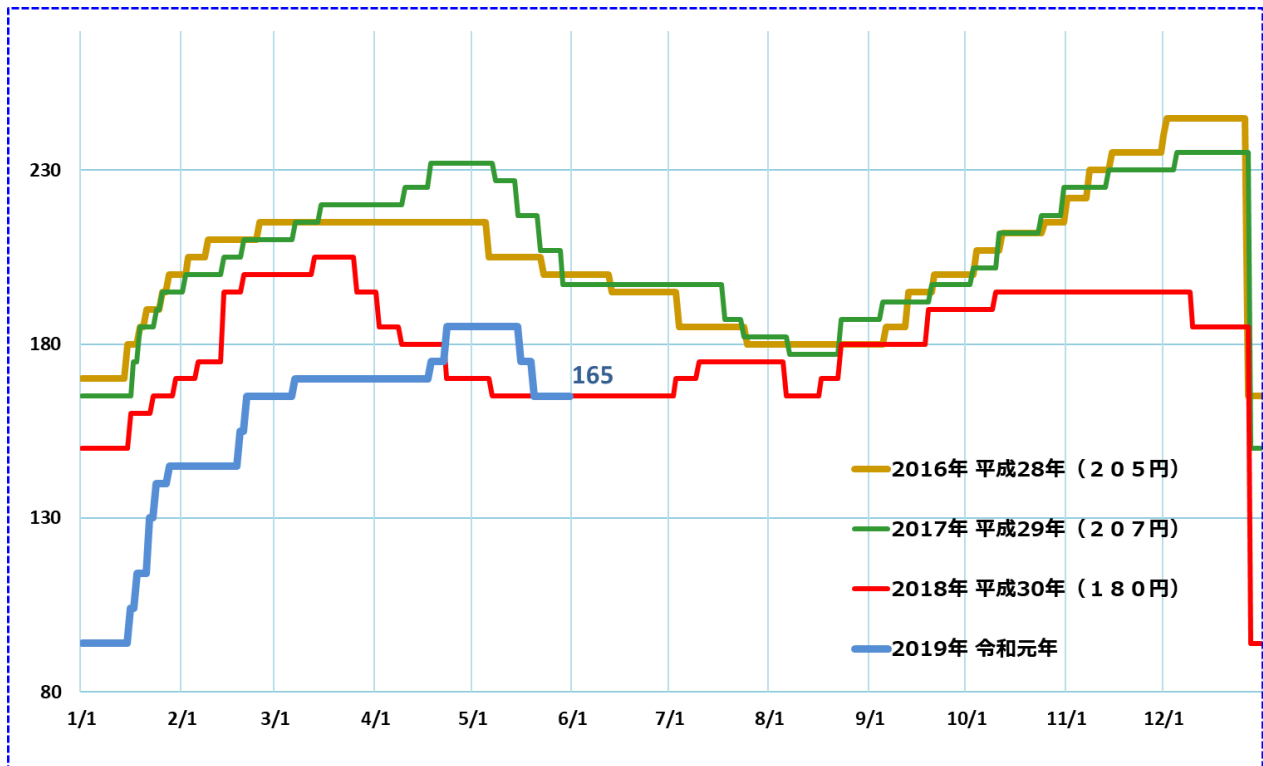
統計データ

【相場動向】 過去 10 年間の 5 月相場<Mサイズ>

	平均値	高値	安値
平成22年	178	198	169
平成23年	213	258	199
平成24年	168	208	154
平成25年	164	198	154
平成26年	204	238	194
平成27年	230	253	224
平成28年	204	233	194
平成29年	216	250	191
平成30年	165	188	159
令和元年	173	203	159
平均値	192	223	180

令和元年 5 月の鶏卵相場(東京全農Mサイズ)は、令和プレミアムが奏功してか平均値(173 円)、高値(203 円)、安値(159 円)ともに、過去 10 年間で突出して安い相場とはいえないものの、過去 10 年間平均と比較すると 1 割ほど安い相場となっています。

【鶏卵相場推移 2016 年～2019 年 東京全農Mサイズ 円/ kg】



卵価は先月末に引き続きGW後も 185 円をつけたものの、中旬より下降に転じ、20 日には 165 円となり成鶏更新が発動され月末にいたりしました。前年同日と同水準まで落ちたため、今後の動向につき注視が必要です。



【鶏卵関係主要計数】平成 31 年 3 月までの 1 年間の主要計数推移

	雛餌付羽数(出荷)		配合飼料出荷量		家計消費量		鶏卵相場	
	数量(千羽)	前年比	成 鶏 用		一人当たり		東京全農M	
			数量(千ト)	前年比	数量(グラム)	前年比	前年	本年
4月	9,503	104.3%	477	101.8%	885	97.6%	227	179
5月	10,035	111.1%	503	101.2%	965	108.4%	216	165
6月	9,193	94.2%	482	101.6%	908	107.7%	197	165
7月	9,902	111.4%	446	98.0%	844	97.4%	191	173
8月	8,723	104.6%	488	99.9%	853	100.5%	182	172
9月	8,897	98.7%	451	97.2%	882	102.8%	194	184
10月	9,972	108.1%	508	104.2%	913	100.4%	211	194
11月	9,690	101.8%	502	101.6%	901	100.2%	228	195
12月	8,709	95.9%	533	99.6%	934	99.8%	234	188
31年 1月	9,706	103.4%	490	102.4%	881	99.1%	159	121
2月	8,293	91.8%	464	100.6%	827	96.0%	189	152
3月	8,996	90.5%	494	95.6%	914	102.0%	201	169
1年間合計 平均(%)	111,619	101.3%	5,838	100.3%	10,707	101.0%	202 (平均)	171 (平均)

注：雛餌付羽数は全国推定値

- ・雛餌付羽数は、8,996 千羽（前年比 90.5%）と前年の 9 割まで減少したが、年間では未だ前年比を 1.3% 上回っています。
- ・配合飼料出荷量は、494 千トン（前年比 95.6%）と前年を下回るものの、年間では未だ前年比を 0.3% 上回っています。
- ・鶏卵の家計消費量は、914 グラム（前年比 102.0%）と 3 ヶ月連続の前年割れを脱し、年間では前年比 1.0% 増と堅調に推移しています。
- ・雛餌付羽数は抑制されましたが、引き続き鶏卵価格の動向につき注視が必要です。

日鶏協ニュース 発行者：一般社団法人 日本養鶏協会

〒104-0033 東京都中央区新川二丁目 6 番 1 6 号 馬事畜産会館内（5 階）

TEL：(03)3297-5515 FAX：(03)3297-5519 発行日 2019 年 6 月 4 日

編集・発行責任者：浅木 仁志 (info@jpa.or.jp)

